

## 入選

### 見まもることも親切

山形県 上郷小学校

四年 北澤 優志

ぼくは、お母さんと買い物に行くと、ほしいものを買ってもらえるから、うれしい気持ちになる。お母さんが野菜や魚のコーナーを見ているときも、ぼくは一人でおかしのコーナーに行って、好きなおかしをいくつかえらんで、お母さんが「いいよ」と言ってくれたものはカゴに入れて、「ダメ」と言われたものは、おかしコーナーにもどす。

ぼくはあたりまえみたいに走れるし、歩けるから、買いものをしているさい中にこまったことなんて一回もない。大変な思いをしたり、苦ろうしながら買いものをしている人がいるなんて、考えもしたことがなかった。

お母さんと買い物に行った日。ぼくは、はじめて知った。体が不自由な人に、いつでも手伝うことが、やさしさだったり、親切ではないこと。時間がかかったり、大変そうに見えるけれど、見まもることもやさしさだったり、親切なことだとお母さんは言っていた。

レジでのしはらいをすませて、買いものカゴから自分のふくろに入れていた人がいた。つえをついていて、かた方のうではまがったままで、足はピンとのびきっていた。つかえる手で、カゴの中のものをふくろに入れていたけれど、大きいキャベツとかぼちゃを入れるのは大変そうだった。

そのときだった。ぼくとお母さんは、その人が玉ねぎをゆかに落とすところを見てしまった。うまくうごかない体を動かして拾おうとしていた。しばらくして、お母さんがぼくに「玉ねぎ、拾ってあげて。」とおねがいしてきたから、ぼくは拾って、ふくろに入れてあげた。

「ありがとう。」って言われたけれど、「もう自分ですからいいよ。」と言われた。体が不自由だし、落としたものを拾うことは大変なことなのに、自分ですることは、もっと大変なことなんじゃないかなと思った。それをお母さんに話したら、

「時間がかかることもあるだろうけど、その人にとっては自分でできることは自分ですることが大切なことだと思っているんだろうね。だから、いつでも手をかすことがやさしさとか親切ではなくて、できることをちゃんと自分でやることを、見まもることも親切の一つだと思うよ。」

と、話してくれた。

ぼくは、まだまだ、だれかのためにやさしくしたり、親切をすることはむずかしくてできないし、手をかさないことが親切ということも、むずかしくてわからないけれど、買いものをしてた人が玉ねぎを落としたとき、お母さんがすぐに拾いに行くようにぼくに言わなかったのは、もしかしたら、その人が自分で拾おうとしていることがわかったからかな。

ぼくは、ぼくのために力になってくれた人には、「ありがとう」と言える人になりたいな。